



地域基盤型多職種連携教育

大学連携による住民の暮らしを支える専門職の育成

平成29年7月26日(水)

薬学部 細谷 治

INTER**P**ROFESSIONAL **E**DUPLICATION

多職種連携教育
(專門職連携教育)

専門職連携教育 (IPE) とは

複数の領域の**専門職者**が**連携**およびケアの質を改善するために、同じ場所で**共に学び**、お互いから**学び合い**ながら、**お互いのことを学ぶ**こと

(The Centre for the Advancement of Interprofessional Education; CAIPE, 2002)

医療者を取り巻く最近の話題

過剰投薬で女性死亡
老人ホーム・職員間情報共有されず

生命維持治療の中止は許されるのか！
認知症患者への胃ろう、どうしたらいい？

ハーボニー配合錠・偽造薬 **安全安心神話の崩壊**

別の患者の乳房を誤って**切除**
乳がん検体取り違い

治験でCRCが**患者日誌**を改ざん！

医療費40兆円を超える！

術後死64人、半数が同じ医師

薬価の改定 オフジーボ薬価大幅引き下げ

かかいつけ薬剤師！？
健康サポート薬局？

血液製剤を10年超不正製造
記録も偽造 出荷停止処分

地域包括ケアシステム…うまくいくの？

チーム医療の重要性

多くの医療事故の原因は職種間の**連携不足**

英国では:

1980～1990年代に多発した医療過誤による死亡事件や児童虐待による殺人事件を綿密に分析した結果、関連する**専門職**や**機関**の**連携不足**と指摘され、その後、共通言語の確立や専門の垣根を超えた**共同学習**が**提起**された。

(IPWを学ぶ 利用者中心の保健医療福祉連携, 埼玉県立大学編集, 中央法規出版)

チーム医療

INTERPROFESSIONAL WORK

IPW: 専門職連携実践

複数の領域の専門職者が、それぞれの技術と知識を提供しあい、相互に作用しつづ、共通の目標の達成を患者・利用者と共に目指す協働した活動



高度な医療への対応、医療安全の確保
質の高いケアの提供

IPWをより効果的に行うために

それらに求められる知識・態度、スキルを養うための教育

 学生のうちに行うことが重要

IPE

多職種連携教育
(専門職連携教育)

ところで、我々が住む埼玉県は・・・

人口10万人当たりの医師数

……全国で1番に少ない

人口10万人当たりの病院数

……全国で1番に少ない

平成17～31年にかけての高齢者人口増加率

……全国1位

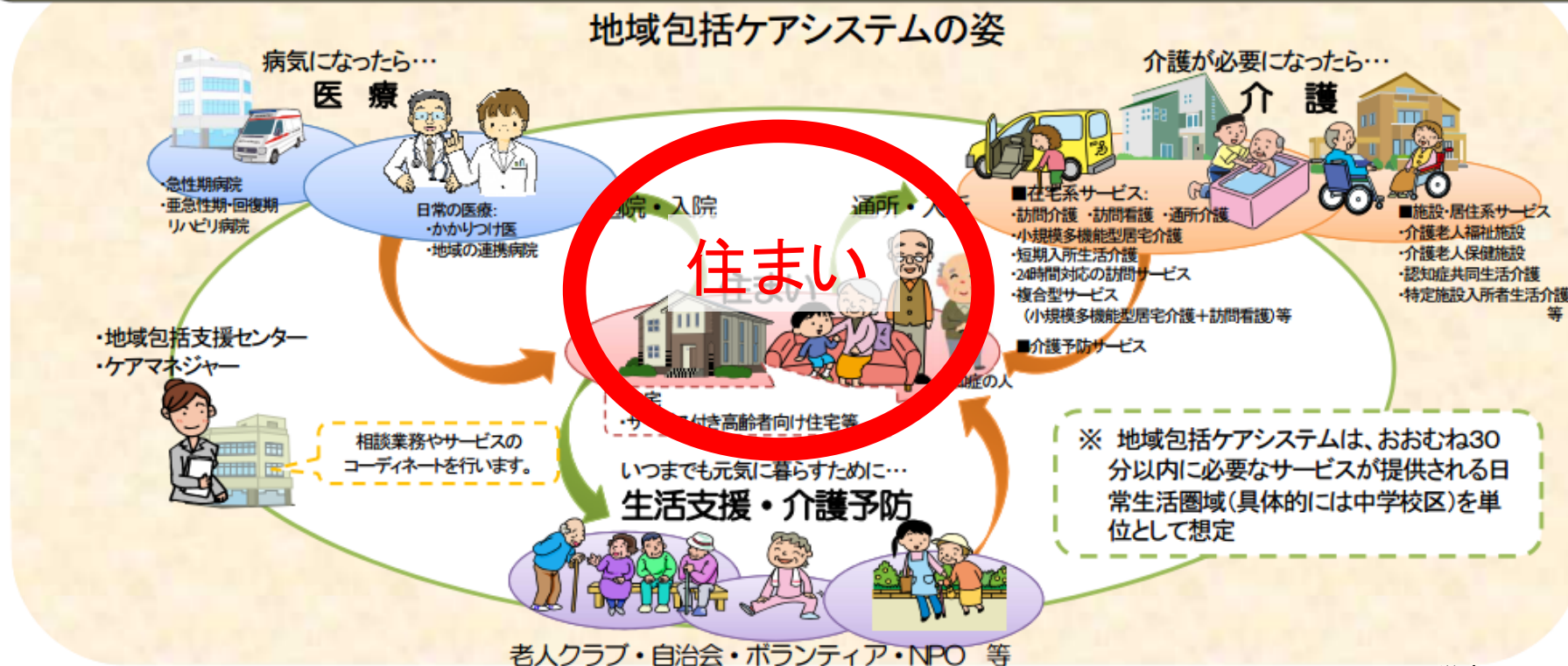
平成17～42年にかけて高齢者単独世帯の増加率

……全国1位

**医師だけに頼るのではなく
他の医療者の活躍に期待！**

地域包括ケアシステム

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現**していきます。
- 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差**が生じています。
地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていく**ことが必要です。



彩の国連携力育成プロジェクト

プロジェクトの目的

多職種連携によって課題を発見し解決できる人材育成を行い、
専門職連携 (Interprofessional Work: IPW) によって地域住民の質
の高い暮らしを支えることのできる地域社会づくりに貢献する



城西大学薬学部
薬学科・薬科学科
医療栄養学科

日本工業大学工学部
工学部

埼玉医科大学
医学部医学科

埼玉県立大学
保健医療福祉学部

連携力の高い人材(専門職)の養成

彩の国連携力育成プロジェクトの事業概要

II 彩の国大学連携教育システムの構築

連携教育の効果検証

- 1) 試行教育事業評価
(IPW実習・IPW演習・ヒューマンケア論・ヒューマンケア体験実習)
- 2) 卒業生への調査

学生自主学习支援

- 1) 学生学習グループ
「SAIFU」の設立支援
- 2) 運営支援

広報(情報発信)

- 1) ニュースレターの発行
- 2) ホームページの作成
- 3) 講演会・シンポジウム・学会報告

プロジェクト運営

- 1) 共同会議(月1回)
ワーキング会議(適宜)
- 2) 学長会議(年1回)

4大学による連携教育の実現 “連携力の高い専門職育成”

I 彩の国大学連携科目の共同開発・共同開講

地域基盤型IPE

ヒューマンケア論

ヒューマンの学び

ヒューマンケア体験実習

ヒューマンの体験

IPW論

チーム形成、グループワーク、
マネジメント(基礎・方法論)

IPW演習

チーム形成、グループワーク、
マネジメントの模擬的実践

IPW実習

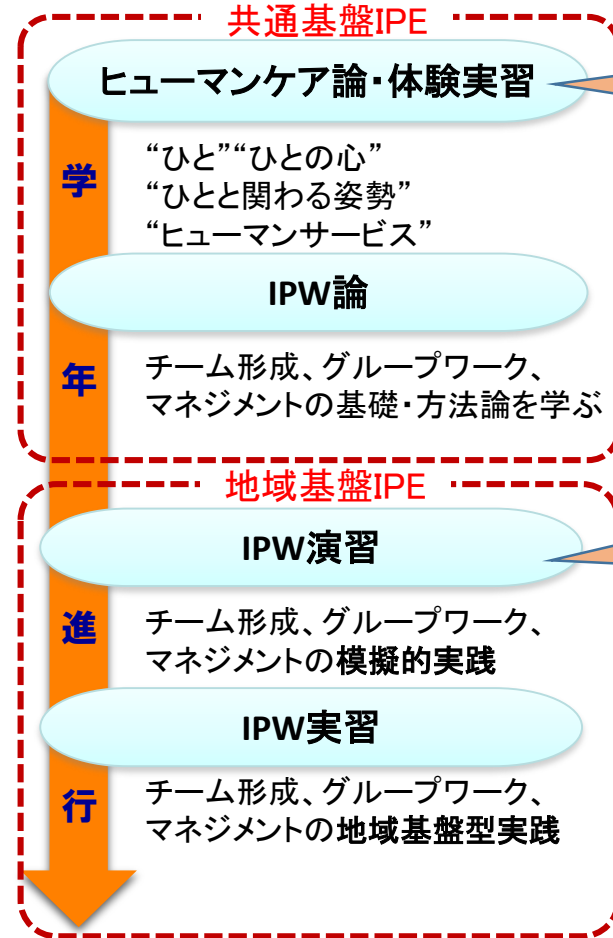
チーム形成、グループワーク、
マネジメント(地域基盤型実践)

II 彩の国大学連携教育システムの構築

連携教育能力の開発

- 1) 研修会・シンポジウム
薬学とIPE
経験学習
生活環境とケア
地域包括ケア
ケアに必要な人材
など
- 2) 専門職連携講座
ベーシック講座
スキルアップ講座
- 3) ワークショップ
4大学教職員・学生との交流
連携教育方針の共有
IPW体験
連携共同開講科目の検討
教員活用の可能性追求
- 4) 学内報告会
各大学で本取組と連携教育の必要性に関する講演

彩の国連携科目



ヒューマンケア

人が人に対して人間らしい細やかな
気づかいをすること

IPW演習・IPW実習

複数の専門職がそれぞれの技術と知識を提
供しあい、相互に作用しつつ共通の目標達成
を利用者と共に目指す協働した活動

IPW実習

- 患者（利用者）のケアプランの作成
- チーム形成

- 多領域の相互理解
- 患者（利用者）・集団・地域の理解と課題解決の検討

実習施設：埼玉県内の保健医療福祉施設（13カ所・平成29年度）

IPW実習



施設ファシリテーター

施設ファシリテーターと
一緒にリフレクション

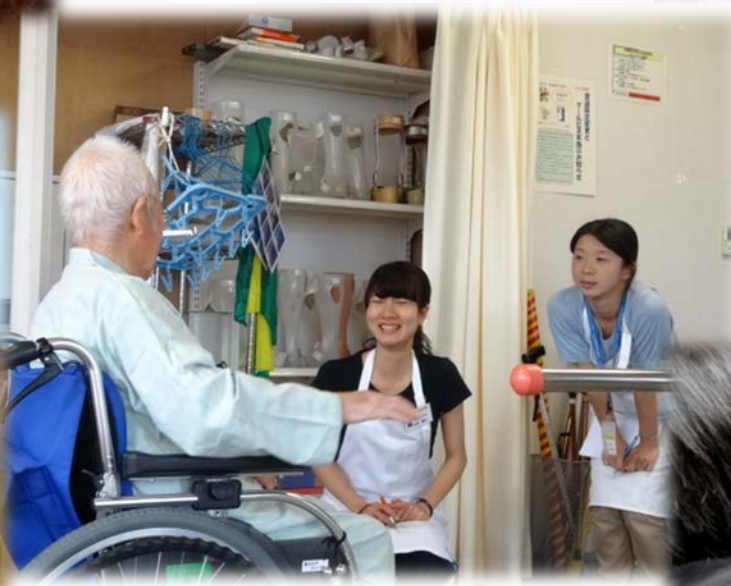


看護

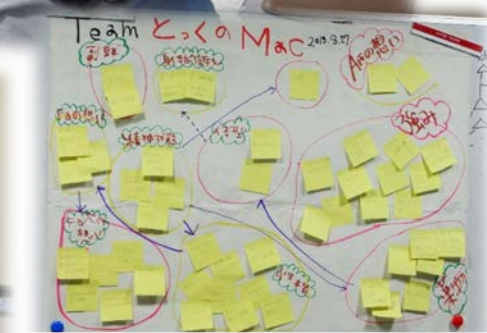
薬学

建築

医学



情報収集(対象者・スタッフ)



情報収集を模造紙にまとめ



IPW実習を終えた 学生達の生の声

グループで話し合うことの難しさを知った。他分野が入ること
で幅が広がった。

自分たちの成長を感じた。
相手の人をわかろうと思った。人とのつながりは楽しい。

人は100%じゃないということに改めて気付いた。それぞれの
力を合わせる大切(100%になる)。できないことをさら
けだすことが重要。

自分が変わるのを感じた。成長を感じた。

チームのすれ違い、ギャップをすりあわせることを学んだ。
人としての関わり方が大切。

それぞれ考え方が違う。皆の意見を聞くことで自分の発想
が広がった。

実りのある4日間。勉強することが多かった。
それを生かすのも自分次第。

そして… 工学部学生の参入効果

- 医療系専門職だけの連携教育に比べ、「**住まい**」を基盤とした、より“**生活**”を意識した“**一般(地域住民)**”の視点からの議論が可能となった
- 工学部の学生には、**医療系専門職の共通言語**を理解するための葛藤が生まれ、医療系の学生には**一般の視点**を理解するための葛藤が生まれ、お互いを理解するための“**葛藤を乗り越えたチーム形成のプロセス**”が体験可能となった

保健医療
福祉分野 + 建築分野

科目運営

地域の課題を解決するために
(住民の質の高い暮らしを実現)

連携力を発揮する



ペイシエント・ファースト
シチズン・ファースト
「 想 い 」

この取り組みの根っこにある「ヒューマンケア」



薬学部でIPEを行う意義とは・・・

彩の国連携力育成プロジェクト(地域基盤型IPW)の
コンピテンシー(行動特性)



合致

薬学部で育てようとする人材に**求められる能力**
(目標)

薬学科を例に・・・

新・薬学教育モデル・コアカリキュラム 「**薬剤師として求められる基本的な資質**」

- ①薬剤師としての心構え
- ②患者・生活者本位の視点
- ③コミュニケーション能力
- ④チーム医療への参画
- ⑤基礎的な科学力
- ⑥薬物療法における実践的能力
- ⑦地域の保健・医療における実践的能力
- ⑧研究能力
- ⑨自己研鑽
- ⑩教育能力

彩の国連携力育成プロジェクトのコンピテンシー

● ヒューマンケアマインド

- ・人間・地域・社会について関心を持つ
- ・ケアについての基本的知識を身に付けている
- ・自己と他者に関心を持ち自他の多様性・個別性・具体性を理解する
- ・相手と対等な立場で相手を尊重し、相手に配慮した行動をとることができる
- ・相手の変容から自分の喜びを感じることができる

● 専門性を志向し柔軟に発揮する力 (得意なこと)

- ・自分の専門性に社会から求められる知識・技能・態度・価値(観)を身に付けている
- ・(求められている)自分の専門性に基いて考え行動できる
- ・自分の専門性の向上に意欲を持つ
- ・自分の専門性を理解し、その限界と可能性を認識する
- ・専門性にとらわれない柔軟なものを見方ができる
- ・自他の専門性の重複部分、カバーされていない部分について、自らの役割を判断して行動する

● 自己とチームをリフレクションする

- ・リフレクションのために必要な知識と態度を身に付けている
- ・IPWIにおける自分の言動・生じた思いや感情について振り返り、チーム活動の成果や課題に気づく
- ・IPWIにおけるチーム活動について、チームメンバーと共に振り返り、チーム活動の成果や課題に気づく
- ・IPWIについての振り返りを今後の自身の行動に生かす

● チームを形成し行動する力

- ・チームで活動するために必要な知識や態度を身に付けている
- ・情報(リスクを含む)を共有するための行動がとれる
- ・チームとして合意するために、メンバーと議論する
- ・チームの目標を共有し達成するための行動がとれる
- ・チームを俯瞰して状況を把握し、それを踏まえた行動ができる

● コミュニケーション能力

- ・コミュニケーションをとるために必要な基礎的な知識を身に付けている
- ・自分の考えや思いを相手に伝えることができる
- ・相手が発している思いや考えに気づき、受け止めることができる
- ・相手と一緒にメッセージの内容の理解が合致しているか確認する
- ・納得するまで対話を重ねる

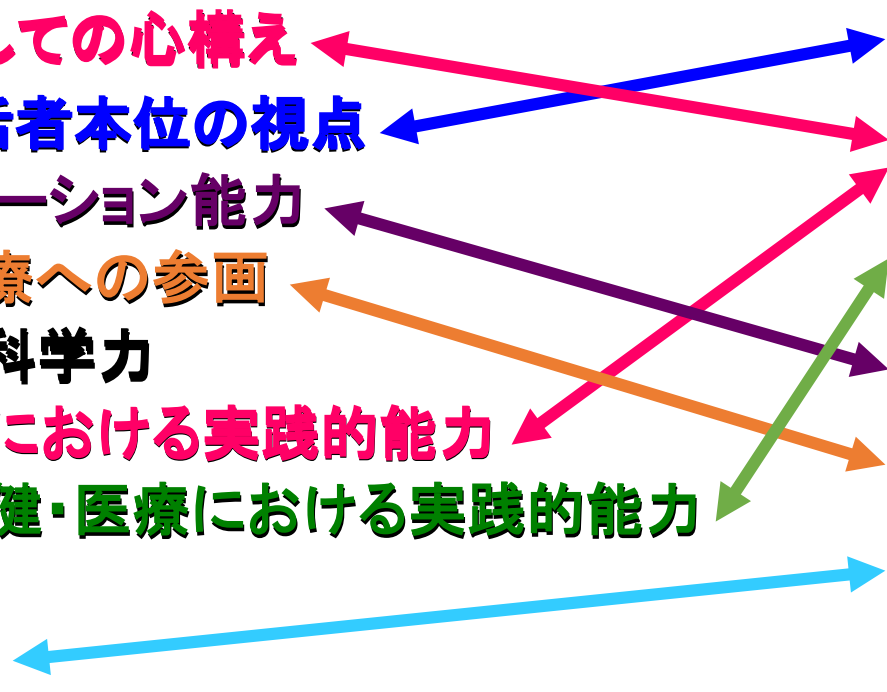
薬学教育モデルコアカリキュラムと比較すると

薬剤師として求められる基本的な資質

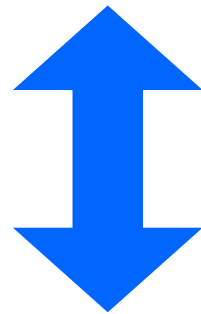
- ① 薬剤師としての心構え
- ② 患者・生活者本位の視点
- ③ コミュニケーション能力
- ④ チーム医療への参画
- ⑤ 基礎的な科学力
- ⑥ 薬物療法における実践的能力
- ⑦ 地域の保健・医療における実践的能力
- ⑧ 研究能力
- ⑨ 自己研鑽
- ⑩ 教育能力

本プロジェクトのコンピテンシー

- ① ヒューマンケアマインド
- ② 専門性を志向する態度と行動
- ③ 専門性を柔軟に発揮する力
- ④ コミュニケーション能力
- ⑤ チームを形成し行動する力
- ⑥ 自己とチームを省察する力



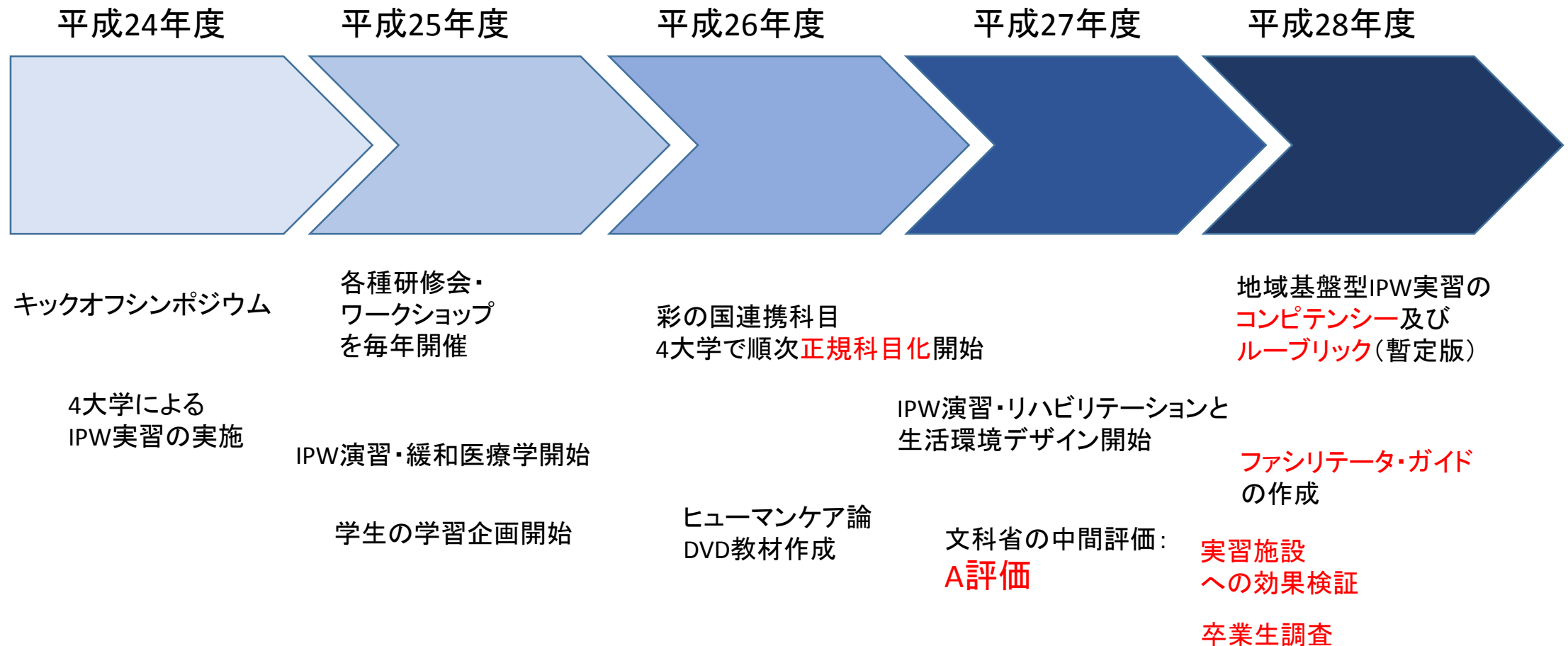
彩の国連携力育成プロジェクト(地域基盤型IPW)の
コンピテンシー(行動特性)



かなり一致
しそうだ!

薬学部で育てようとする人材に求められる能力
(目標)

彩の国連携力育成プロジェクトのロードマップ



平成28年度 第2回 彩の国大学連携学長会議(平成29年1月25日)にて 補助期間終了後の“相互協力・連携に関する協定”を締結



新たなロードマップ

平成28年度

平成29年度～

H29年度以降の
”相互協力・連携に関する協定”
を締結

継続的で
発展的な
科目運営

大学間連携共同教育推進事業で構築した彩の国連携科目の運営

保健医療福祉分野等における人材育成に資すること

4大学の枠を超えた
人材育成



彩の国連携力育成プロジェクト
Saipe URL: <http://www.saipe.jp/>